

[平成29年11月 定例会-12月06日-05号]

- 外国から訪問者がある際に国旗や市旗を有効活用することについて
- 田子の浦港のプロモーションについて

◆10番（山下いづみ 議員） 私は、さきに通告してあります2項目、外国から訪問者がある際に国旗や市旗を有効活用することについてと、田子の浦港のプロモーションについて質問いたします。

まず初めに、外国から訪問者がある際に国旗や市旗を有効活用することについて質問いたします。

海外からお客様を迎えるには、さまざまなおもてなしの方法があります。その中でも、国を象徴する国旗に敬意をあらわすことは、国際社会の基本的マナーであります。我が富士市は、中国の嘉興市と友好都市として、米国のオーシャンサイド市とは姉妹都市として提携を結んでおり、この2市を初め、そのほかの富士市とつながりのあるまちから富士市に訪問があります。このように海外から訪問者を迎える際に、友好親善の意をあらわす1つの方法として、国旗や市旗を活用することはとても有効だと考えます。また、市内に訪問者の国の旗を立てることにより、市民にも外に開かれた国際色豊かな富士市を広報することにもよいと考えます。

そこで、以下2点について質問いたします。

(1)外国から富士市に表敬訪問者がある際には旗を立てておもてなしをしてはいかがでしょうか。

(2)場所としては、市役所、新富士駅前、ロゼシアター前が考えられますが、いかがでしょうか。

次に、田子の浦港のプロモーションについて質問いたします。

田子の浦港は、富士山南麓を流れる沼川と潤井川の河口に掘り込み式港湾として昭和33年から10年余の年月をかけて完成しました。それ以来、静岡県東部の物流拠点として役割を担っています。静岡県内で貨物取扱量を有する重要港湾であり、平成27年度の取扱貨物は349万トン数を数え、県内港湾全体貨物量の約2割、県内第2位の位置を占めています。また、近年は全国的に客船誘致活動が活発になり、田子の浦港も富士山に一番近い港として客船誘致にも力を入れ始めています。工業を支える産業・物流港として、それに加えて、客船を受け入れる港として発展していく余力は十分にあると考えます。

そこで、以下5点について質問いたします。

(1)工業を支える産業・物流港として、(ロ)田子の浦港の強みは何と捉えていますでしょうか。(ハ)田子の浦港の利活用に市はどのように関わっているのでしょうか。

(2)客船を受け入れる港として、(ロ)田子の浦港をどのようにプロモーションしているのでしょうか。その成果はどのようでしょうか。(ハ)ふじのくにクルーズ船誘致連絡協議会へはどうかかわっていくのでしょうか。(ニ)どの程度の大きさの客船が停泊できるのでしょうか。大型船が停泊できる旅客ターミナルの設置を検討してはいかがでしょうか。

以上、2項目7点についてお聞きし、1回目の質問といたします。

○議長（望月昇 議員） 市長。

〔市長 小長井義正君 登壇〕

◎市長（小長井義正 君） 山下議員の御質問にお答えいたします。

初めに、外国から富士市に表敬訪問者がある際には旗を立てておもてなしをしてはいいかがかについてであります。国旗はその国の象徴であり、国旗に敬意を表することは国際社会の基本的なマナーとされております。外国からお客様を迎える際に国旗を掲揚する場合には、1本のポールに複数の国旗を掲げてはならないなど、国旗の取り扱いについては国際的な決まりがあり、丁寧かつ慎重な取り扱いを要するものとなっております。こうしたことも踏まえた中で、本市では友好都市の中国嘉興市及び姉妹都市の米国オーシャンサイド市から公式訪問団が来訪される際は、滞在期間中、市庁舎2階市民デッキの国旗掲揚ポールにそれぞれの国の国旗を掲揚し、訪問者に対する敬意と歓迎の意を示しております。このおもてなしの1つとしての外国国旗の掲揚につきましては、引き続き行ってまいりたいと考えております。

次に、場所としては市役所、新富士駅前、ロゼシアター前が考えられるがいかかについてであります。市役所につきましては、今後も同様に市庁舎2階市民デッキの国旗掲揚ポールへの掲揚を行ってまいります。各国の国旗には、それぞれの国の成り立ちや歴史等の深い意味が込められており、市民の皆様がその国旗を目にすることで、その国に対する関心や理解を深めるきっかけになり得る側面もあると認識しております。議員御提案の新富士駅前やロゼシアター前に外国の国旗を掲げることにつきましては、来訪者の目的や規模などがさまざまありますので、それぞれの状況に応じて対応を検討してまいります。

次に、田子の浦港のプロモーションについてのうち、工業を支える産業・物流港として田子の浦港の強みは何と捉えているのかについてであります。田子の浦港周辺の臨港地区は、岳南地域の富士山麓を水源とする良質で豊富な地下水を背景に、紙・パルプのほか、化学繊維や食品加工などの製造業が工業地域を形成し、本市はもとより、県東部地域の産業や物流の拠点としてその役割を果たしてまいりました。平成25年度、9メートルであった水深が12メートルへ改良整備されたことにより、3万トン級の大型貨物船の入港が可能になるなど、物流コストの低減につながる港湾機能の強化が図られつつあります。また、東名・新東名高速道路のダブルネットワークに近く、国道1号に隣接している交通アクセスの利便性は、海上物流の拠点である田子の浦港の強みの1つと考えており、新たな物流ルートの形成等による経済活動の活性化を期待しております。

さらに、耐震強化岸壁を有する田子の浦港は、駿河湾港を構成する清水港、御前崎港とともに、防災拠点港湾に位置づけられており、緊急物資の輸送手段が海上輸送となる場合、広域物資拠点等に搬送する集積場を担うこととされております。とりわけ、海拔17メートルの海岸防潮堤で守られ、岸壁が高い田子の浦港は、レベル1の地震・津波では浸水被害がない、津波に強い安全な港であり、いち早く緊急物資を受け入れることが可能なことから、県東部における輸送活動に大変重要な役割を果たすものと考えております。

本市といたしましては、今後も港湾管理者である県と連携し、これらの強みを田子の浦港振興ビジョンに基づく取り組みなどで強化することにより、産業活動を支える港の物流機能の高度化の促進と市民生活向上への寄与に努めてまいります。

次に、田子の浦港の利活用に市はどのようにかかわっているのかについてであります。田子の浦港の貨物取扱量は、平成7年の約770万トンピークに減少傾向にあることから、港の発展と県東部地域の産業活性化を目的として、港関係企業と行政が官民一体となって田子の浦港ポートセールス実行委員会を設立し、港の利用促進に向けたポートセールス活動を行っております。ポートセールス活動では、より広域の顧客に対して幅広い用途に港が利用されるよう、本市が先頭に立ち、山梨県の商工団体、県、市町への訪問のほか、東

京都や名古屋市で開催される物流展や市内のイベントにおいて広報パンフレットや啓発グッズを配布するなど、港の広報活動と情報収集に努めております。

また、県内においても、田子の浦港の機能や位置、規模等の認知度が低いため、県東部の商工会議所会員や市内の企業に対し田子の浦港の視察会を開催するなど、港に訪れて、見て、知っていただく活動もあわせて実施しております。さらに、本市が事務局である田子の浦港振興会では、港の整備発展と利用促進を図るため、国や県へ港湾整備の要望活動を行うとともに、港湾取扱貨物の拡大に向けた広報宣伝活動を実施しているところであります。しかしながら、港を利用する企業の生産活動におけるサプライチェーンは、仕入れから出荷まで系統的に構築されており、ポートセールスに求められる成果は一朝一夕に得られるものではありません。今後も地元自治体である本市が核となり、継続的なポートセールスを実施するとともに、国や県へ港湾整備の要望活動を行うなど、多様化する企業ニーズに対応できる田子の浦港の整備と利活用の促進に注力してまいります。

次に、客船を受け入れる港として田子の浦港をどのようにプロモーションしているか、その成果はどうかについてであります。本市では、富士山の世界遺産登録を契機として、関係者との連携のもと、田子の浦港の観光面での魅力を発信すべく、田子の浦ポートフェスタを初めとする港周辺でのイベントの開催や、地場産品である田子の浦しらすのブランド力の向上に努めてまいりました。帆船「日本丸」が初寄港した昨年の開港 50 周年記念事業では、市内外から 2 万人以上の御来場をいただき、また、田子の浦港漁協食堂などには、新鮮な生シラスを目的に年間 8 万人以上が訪れたと伺っております。本年度は、田子の浦しらすが地域の名産物を知的財産として保護する地理的表示保護制度に登録され、ベイエリアの観光的利活用を目指す取り組みの成果が着実にあらわれているものと考えております。また、クルーズ客船につきましては、平成 26 年、平成 27 年と 2 年連続して田子の浦港ににっぽん丸が寄港し、港のにぎわいづくりに寄与したものと考えており、今後も継続的に寄港していただけるよう、昨年度から、客船を所有する船会社や旅行代理店などに訪問する客船誘致活動を実施しているところであります。

昨年、港周辺のにぎわい創出に係るアンケート調査を行ったところ、東京都等の大都市圏では、回答者の約 8 割の人が田子の浦港を知らないという結果となりました。このため、田子の浦港の認知度向上やにぎわいづくりに向け、交流人口拡大による観光振興や、消費拡大などの地域経済への波及効果が期待できるクルーズ客船の誘致活動は欠かせない取り組みと考えておりますので、今後も活動の回数や範囲を広げるなど積極的に取り組んでまいります。

次に、ふじのくにクルーズ船誘致連絡協議会へはどうかかわっていくのかについてであります。県は、世界的なクルーズ需要の高まりや県内へのクルーズ船の寄港数が大幅に増加したことなどを受け、客船誘致委員会が組織されている港を中心に、本年 7 月、各組織の連携強化や誘致手法の研究、船会社等への共同誘致などの活動に取り組むふじのくにクルーズ船誘致連絡協議会を設立いたしました。この協議会は、各港における誘致団体等の活動を促進することを目的としており、会員となるには活動主体となる誘致団体等が組織されていることが条件となりますが、現在、本市ではこのような組織がないため、オブザーバーとして参加し、他市との連携強化や情報の共有を図っております。

田子の浦港は、県東部の産業を支えるバルク貨物の拠点港となっているため、まずは海上物流拠点としての機能向上を優先すべきという御意見もあり、これまでは誘致団体を組織せず、本市が単独で客船誘致活動を実施してまいりました。しかしながら、田子の浦港

には物流と観光の両立が必要であり、クルーズ客船の寄港がもたらす交流人口の拡大は、地域経済の活性化に貢献するものと考えておりますので、今後は産業港との両立を図り、関係団体と調整を進めた中で組織を設立し、正式に加入してまいります。

次に、どの程度の大きさの客船が停泊できるのか、大型船が停泊できる旅客ターミナルの設置を検討してはいかがかについてであります。田子の浦港は河口とその周辺の陸地を掘り込んだ港湾であるため、港口航路が120メートルと狭く、原則一方通行の入出港となるなど、船舶の大きさ等に制限があります。過去には、全長約183メートルと日本の客船では2番目に大きいぱしふいっくびいなすの入港実績があり、安全に入港できる客船の大きさは、おおむね200メートルまでと伺っております。世界のクルーズ人口は右肩上がりで急増し、昨年訪日旅客数は前年比78%増の約200万人とされており、国は、これを地域経済に波及させるため、クルーズ船の受け入れ環境の整備など、訪日クルーズ500万人の実現に向けた取り組みを推進しております。一方、クルーズ人口の増加に伴い船舶の大型化は拍車がかかり、世界最大級は全長360メートルを超え、訪日の外国客船も250メートル以上がほとんどであり、現状では大部分の客船が田子の浦港へは入港できない状況となっております。このため、旅客ターミナルの設置につきましては、現段階において実現は大変困難と考えておりますが、近年、入港可能なサイズの外国客船も訪日実績が出てきたことから、田子の浦港に見合った客船の誘致活動に取り組み、観光交流人口の拡大に努めてまいります。

以上であります。

○議長（望月昇 議員） 10番山下議員。

◆10番（山下いづみ 議員） それでは、また順に質問を続けていきます。

まず初めに、外国から訪問者がある際に国旗を有効活用したらどうかということに関しましては、姉妹都市、友好都市のところでは市役所の2階デッキに掲げているということですが、そういったことは、今はその決まりというのは、姉妹都市、友好都市のみという決まりをつくっているということでしょうか。

○議長（望月昇 議員） 市民部長。

◎市民部長（野浩一 君） 特に明文化した決まりはございませんけれども、姉妹都市、友好都市という提携を踏まえて、その両都市には敬意を表して国旗を掲揚しているというところでございます。

以上でございます。

○議長（望月昇 議員） 10番山下議員。

◆10番（山下いづみ 議員） はい、わかりました。そして近年、オリンピックが近いということで、いろんな自治体であるとか企業が世界の国旗を掲げたりしているということもありますけれども、富士市では来年のダイビングワールドシリーズ開催地に選ばれたということで、そちらでも外国籍を持った方たちが来ると言うんですけれども、そういうところに関しても掲げていくとか、事前合宿ということは今誘致している中でまたここに来るということになれば、そういう国の人たちの国旗も掲げるとことは本当に友好親善になると思うんですが、そちらのほうは考えているのでしょうか。

○議長（望月昇 議員） 市民部長。

◎市民部長（野浩一 君） 来年3月開催予定のダイビングワールドシリーズにつきましては、複数の国の選手がお見えになります。国旗掲揚塔につきましては、多くても3本になっているかと思えます。先ほど市長答弁にもありましたように、国際儀礼の中で1本

のポールに複数の国旗を掲げてはならないとか、そういうルールがございますので、そういう大会のときに複数国旗は掲揚台ではなくて別の方法でお示しすることは可能かもしれませんが、掲揚台への掲揚というのはちょっと難しいのかなというふうに思っております。

また、今、事前合宿の誘致につきましては、ハンガリー、ラトビアを中心に進めておりますけれども、そういうところが事前合宿に来ていただいたときには、これは単独の国になりますので掲揚も考えられると思いますので、そういう対応をしてまいりたいというふうに考えております。

○議長（望月昇 議員） 10 番山下議員。

◆10 番（山下いづみ 議員） 3本しかないので複数のところは難しいということですが、そうならば、簡単に言えば棒をふやせばいいのかなというふうに思いましたが、あと、今、市役所のところ、水泳のところだと、あそこは5本掲げられますよね。では、何カ国来る予定なのか、予想はあるのでしょうか。何カ国になるか、まず教えてください。

○議長（望月昇 議員） 市民部長。

◎市民部長（野浩一 君） 済みません、国の数につきましては、選手の具体的な国を私どもはまだ承知していないところがありまして、今後、日本水泳連盟等と打ち合わせをしながら、どういう選手が来るということもはっきりしてくると思いますので、それがわかったところで対応していきたいと思っています。

以上でございます。

○議長（望月昇 議員） 10 番山下議員。

◆10 番（山下いづみ 議員） またそちらのほうも対応していただいて、ポールが間に合わないにしても、何かしらの方法で対応ができるということですので、ぜひ対応していただければとてもうれしいことだと思います。訪問先に自分の国の旗が立っているということは、本当に歓迎されているなということで感激をするわけで、そういうところで交流のスタートに、何か感謝の気持ちとか、ありがとうというところから始まるのは本当に違ってくると思いますので、お願いしたいと思います。

あと、他市を見ますと、実際に旗を掲げるときに決まりをつくらずとも、そのときによっていろいろ自由に旗を立てていますというところが福岡県でありました。ここはちょっと県の単位ですが、ここでは旗も保管をしていて、企業であるとか民間であるとか、市民活動をする団体とかにも旗の貸し出しをしていて、年間30件ぐらい貸し出しをして、いろんなところで旗を使用しているということです。またそちらのほうも参考にさせていただければありがたく思います。

そして、(2)の場所ですが、市役所の2階のところに行けば見えるんですが、どうですか、あそこは見やすいですかね。例えば市役所の前のところを通ったときに見えづらいと思うんですが、ちょっとその点、見えるように、見やすくするようにするということは何か工夫できますでしょうか。

○議長（望月昇 議員） 市民部長。

◎市民部長（野浩一 君） 掲揚台が見やすいか見やすすくないかというのは、ちょっとあれなんですけれども、あそこに掲揚台がつけられた経緯といいますのは、もともと市庁舎ができたときに、今、富士市役所前のバス停があるところからずっと回ってきて2階が正面玄関という形になっておりましたので、そこに掲揚台がつけられたというふうに認識しております。今ちょっと構造が変わっておりますので、そこについては少し研究をさせ

ていただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○議長（望月昇 議員） 10 番山下議員。

◆10 番（山下いづみ 議員） では、またそちらもいろいろ検討していただきたいと思ひます。あと、それ以外に、市役所以外のところではどうかというところで、それも市民の方々に見えるように検討、工夫をしていくということですので、こちらのほうも願ひいたします。

こういうふうには旗を姉妹都市、友好都市以外の人たちが来るときも立てるということは、市内にいろいろな国の旗がなびくということは、外国は遠いというようなところがもっと、富士市にいながらにして他国が近く存在になるということは、とても友好的な気持ちになって、市全体がそういうやわらかい気持ちになるということはとてもよいことだと思ひますので、今回のことは願ひいたします。

では、1 番のほうはこちらで終わりにいたします。

そして、2 番目の田子の浦港のプロモーションに関してですけれども、強みでは、水深 12 メートルで大型貨物船の入港が可能、道路、防災はとにかく強いよということでわかりました。では、そういう強みを市が捉えているというところから、どんなふうには利活用に市がかかわっているのかというところで、市外へのセールスのところでは、山梨県、それとあと東京都、名古屋市のイベントということになりますけれども、それはなぜ山梨県で、ほかの県はないのか教えてください。

○議長（望月昇 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（成宮和具 君） ポートセールスにつきましては、平成 24 年度から始めているわけですが、やはり物流の流れの中で、既存のルートをもっている海岸沿いといいますか、そういうところについては難しいだろうと。こんな中で山梨県方面をまずはターゲットとして活動をし、そして PR については物流展などで東京都、名古屋市等で都会のほうへ出かける、こんなような形で考えて進めております。

以上です。

○議長（望月昇 議員） 10 番山下議員。

◆10 番（山下いづみ 議員） そしてまた、田子の浦港というのはバルクですよ。そこがとにかく特質があるということで、そうしますと、今おっしゃられた海のない山梨県ということもあります。そこで、きょう皆様にお配りした資料の(月)を見ていただきますと、この中で平成 20 年から平成 28 年になってはいますが、ここで近年、よく見ていただくと、まず、割と安定をしているのがトウモロコシ、急激にふえているのが石炭、そして産業、紙のまちというところで紙・パルプというのがでこぼこをしながらもちょっと下がっているという状態になります。そこで、まず初めに、トウモロコシのほうなんですけれども、このところで日本全体で見ますと、工業用のトウモロコシ、コーンスターチ用に日本が輸入をしている約 7 割が清水港と田子の浦港と名古屋港になっているということで、その中でも田子の浦港に毎年 40 万トン、そして、清水港のほうでは圧倒的に多いのが LNG で、トウモロコシのほうを輸入しているのは 3.3% ということで低いんですね。そうしますと、この中部ブロックのあたりでは、田子の浦港がトウモロコシを輸入するというところにかけては結構力が入って、利用されているということになると思ひます。そうしますと、こちらのところを特にまた強みとすればどうでしょうかと。セールスに行くときに、山梨県はもちろんのこと、じゃ、実際にトウモロコシを工業用に使う産業があるならば、そのところをまたターゲットとしていくということも 1 つの手になると思ひますけれども、その

点についてはいかがでしょうか。

○議長（望月昇 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（成宮和具 君） これまでのポートセールスにつきましては、やはり反省点があるということは認識しています。これからもう少しターゲットを絞った上で、強みを生かしながらセールスしていくべきだと思っています。トウモロコシにつきましては、やはりそこに必要とする企業がございますので取扱量が多いということがございます。そして、トウモロコシを積む船につきましても大型化が進んでおりますので、田子の浦港に水深の点で入れないサイズの船がありますが、こういった場合には清水港で一部おろして、喫水を上げて、そして田子の浦港に入って最後全部おろす、このような仕組みもございますので、国際バルク戦略港湾というものが県にございます。これからその辺は引き続き連携してやっていきたいと思えます。

○議長（望月昇 議員） 10 番山下議員。

◆10 番（山下いづみ 議員） そのトウモロコシに関して、工業では的を絞って、もう少し明確に目標というか、見やすくなったのかなというふうに思います。

それとあと、またトウモロコシは、飼料用のトウモロコシの輸入拠点ということにもなると思うんですが、このところで行きますと、飼料用の穀物の平均輸送時間は大体 3 時間と言われていて、先ほど言ったトウモロコシ、中部圏といったら清水港、田子の浦港にかなり集中されてくるんですが、そうしますと、その件につきましても、山梨県はもちろんですが、長野県、神奈川県、千葉県、愛知県、その他の県、こんなところも供給量の拡大としたら、静岡県の戦略としたらできるということになっていて、これは農林水産省の資料なんですが、そうしますと、今の工業のもの、そしてトウモロコシの飼料用のものという材料とかを合わせると年間 100 万トンぐらいにはまだまだなり得る。

そういうところで、田子の浦港は水深 12 メートルになって、前よりはもう少し大きなものが入るようになったということになって、そこも利点ですし、大きいものが入るようになって、近くに来るということは、工業とか、飼料に使うにしても、原料自体のコストも安くできるわけですね。そういうところを含めまして、清水港から田子の浦港に来る。すごく大きな船は清水港でしょうが、田子の浦港も飼料用のトウモロコシということも考えていけば、また他県にも積極的に働きかけていけるのかなというふうに思えますので、こちらのほうも力を入れていただきたいと思えます。

そして、また表を見ますと、平成 27 年、平成 28 年、石炭がどんと上がっています。これは、エネルギーを発電するのに使うということでもどんと上がってきたということですが、こちらはこれからどれぐらい上がるのかという予想とかはできていますでしょうか。

○議長（望月昇 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（成宮和具 君） 明確な予想は出ておりませんが、現在、エネルギーセンターでは、能力の上限に近い稼働をされていると伺ったこともございます。今急にグラフを見ますとふえておりますけれども、これからこれがさらに続いていくということは現状では考えておりません。今後の推移によってどうなるか、少し不透明な部分が多いものですから予測はできませんけれども、現状の分析はそういうことでございます。

以上です。

○議長（望月昇 議員） 10 番山下議員。

◆10 番（山下いづみ 議員） わかりました。またこれからの動向も注視していただきたいと思えます。

そして、富士市の地場産業というか紙のことですが、紙・パルプはでこぼこでちょっと横ばい、そしてちょっと下がっているということですがけれども、全ての紙関係の企業に聞いたわけではありませんが、原料をどこにとりに行っているんですかと聞いたら、清水港ですと答えて一田子の浦港ではなくて清水港です。だから、最近、田子の浦港にとりに行けないようなニュアンスがありました。そうしますと、清水港も遠いところでは実際ありませんが、富士市の企業が田子の浦港でそのまま原料がとれるならそれにこしたことはないわけで、実際に清水港ですごく多く力を、ほとんどやっているのがLNGのガスでありますから、こちらのほうは、富士市のどれぐらいの数の紙関係の企業が清水港にとりに行っているのか。そして、なぜ富士市の田子の浦港ではとりに行けないのか、こんなことも調査をしていただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（望月昇 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（成宮和具 君） 製紙につきましては、古紙等の原料の単価に景気が非常に左右されると思います。そういう中で、0. 幾らという値段で勝負をしている企業がほとんどだと思います。そういたしますと、やはり大量輸送によります清水港のメリット、清水港から運ぶ輸送のコスト、それぞれシビアに計算いたしまして清水港を選んでいるかと思います。そんなことがございますので、調査ということにつきましては、また紙業協会等にも確認をしてみますけれども、現状ですと、非常に乱高下する原料をどのようにコストを安く仕入れるかというところに真剣になって取り組んでいただいている結果が今こうなっていると、こんなふうに御理解いただければと思います。

以上です。

○議長（望月昇 議員） 10 番山下議員。

◆10 番（山下いづみ 議員） 企業がコストのことを考え、清水港ならそういうことも考えられますけれども、田子の浦港も水深 12 メートルになったばかりで、またこちらの可能性もあるのかなというふうに思いますので、またそちらのほうも聞いていただければありがたいと思います。

そして、田子の浦港の先ほどの答弁のところでは、道路も整備をされて、陸の物流に関しても利点があるということになっておりますけれども、田子の浦港管理事務所で話を聞いたときに、ここの特質としたら、いろんな原料は田子の浦港、海から入って、そして、それをとても品質のいい製品にして、またそれが結構道路、陸から物流で流れていくということになっている。これはこれで、道路ではなくて海から入ってまたその陸路というところでもちゃんと連携をとってやっていく港だというふうに聞いておりますので、こちらのほうもいいなと思います。富士市は企業誘致をこれからもしていくと思いますけれども、田子の浦港の活性化も、こういう強みというものを利用するならば、富士市に企業誘致をするならば、このバルクの原料関係のところをまた絞っていただければいいと思いますので、よろしくをお願いします。

そして、(2)の田子の浦港をどのようにプロモーションしていくのかというところですが、イベントをやり、50 周年のときに 2 万人も来たということで、とてもすばらしいんですけれども、そしてあと、シラスがG I 認定になってブランド力も向上してきたというところになりますと、今そのシラスを目的に来る方も多くなったと思いますが、そうしますと、駐車場も今きれいに整備がされていますが、足りなく、増設も必要になってくると思うんですけれども、その駐車場をまたふやすということはどのようにお考えでしょうか。

○議長（望月昇 議員） 産業経済部長。



◎産業経済部長（成宮和具 君） 駐車場につきましては、現状で充足しているとは考えてはおりません。ただ、漁協食堂だけで考えるのではなくて、これから整備を考えております、あのエリア全体というふうな見方もできるのかな、あのエリア全体でもたしか田子の浦みなと公園が180台程度の駐車場だと思います。漁協が50台とかそのぐらいだと思いますけれども、そういう点では、全て充足しているとは思っておりませんが、今すぐにふやすような適地は見当たらないのが現状であります。このために、これから漁協、それから田子の浦港管理事務所等とも協議をしていきまして、既存施設の一部再配置等も視野に入れて今後検討していきたい、こんなふうに思っています。

以上です。

○議長（望月昇 議員） 10番山下議員。

◆10番（山下いづみ 議員） 検討のほうをよろしく願います。

そして、シラスのほうでG I認定シラスということで、私も最近食べに行ったんですけども、6月に認定をされて、あそこのところにG Iに認定されたとか、G Iの認定とは何なのかということの説明がまだ1つもなく、もちろん人に聞けばそこで教えてはくださるんですが、せっかく大勢の方が来始めているということだと、そこをもう少し大きな看板でもあればいいなというふうに思いましたが、そちらのほうは工夫というのはいかがでしょうか。

○議長（望月昇 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（成宮和具 君） G Iを取りまして、非常に私たちもよしということでこれをPRしていこうというふうになりましたけれども、今G Iとして認められている生シラスにつきまして、御案内のとおり、ずっと不漁になりました。組合長とも相談をした中では、余りにG Iのシラスです、生シラスがG IとなりましたということをPRして、来ていただいても、そのシラスがないと逆にがっかりされてしまうようなことが懸念されるということもございまして、ただ、これはまたとれる時期があるかもしれません。必ずとれるものと思っていますけれども、今後、そのG Iに関しましては、やはり一そう引きですぐに氷締めをするという、そこも重要な部分でございまして、そういった部分について、また支援できる部分については支援を考えていきますし、また、G Iのパッケージにつきましても具体的に考えていきたいと思っておりますので、そんな中で漁協食堂でのPRについても考えていきたいと思っております。

以上です。

○議長（望月昇 議員） 10番山下議員。

◆10番（山下いづみ 議員） シラスも人気になって、とれないと食べてもらえないから、その苦勞も出てきたということですが、またこちらのほうも建設的なPRの形をぜひつくってってください。

そして、市が田子の浦港をプロモーションをするというところに、田子の浦港振興ビジョンにも十分にかかわるんですが、その中で、食とにぎわいゾーンというところ、これは市が地域住民の方とワークショップ、なでしこ会議、こういうところで開催して意見を集約して、景観整備を含めたプロムナードの建設が最優先事業と決められた、そういう方向で行きたいということになったと聞いておりますけれども、そちらで話をして、今の時点でどこまで進んでいるのでしょうか。

○議長（望月昇 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（成宮和具 君） さまざまなアイデアをいただく中で、田子の浦しらす

を初め、また、しらすの鉄人というイベントも開催したところでございます。プロムナードというのは、漁港からみなと公園に向かっての部分かと思えますけれども、御案内のとおり、田子の浦港の津波対策事業につきまして、当初の計画でありました富士埠頭沿い、旭化成沿いの直線の部分に土盛りをして、その上を遊歩道にするという考え方も1つあって、その考え方が少し先行した部分があって、そういうものに基づいて、またいろいろにぎわいを、じゃ、どうしていくんだということを検討してきた経緯があります。このたび、田子の浦港の津波対策につきましても、中間報告であります、この前報告をさせていただき、これから部会に諮ってまいりますけれども、それがまた固まった時点で、漁協食堂の南側が中心になるのかなというふうに思っておりますけれども、また再度検討を進めまして協議会に諮っていきたいと思っております。

以上です。

○議長（望月昇 議員） 10 番山下議員。

◆10 番（山下いづみ 議員） また、前回、ワークショップを開いてイメージ図というのをつくられたと思うんですけれども、また、田子の浦港の津波対策のほうもめどがついてきたということで、またこちらのほうのなでしこ会議もまず招集をかけて、しっかりと話し合いをして、では実際にどんな形にやっていけるのかということをやっていたかということでしょうか。

○議長（望月昇 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（成宮和具 君） はい。津波のほうの対策がこのようになるということが固まった時点で、再度また一再度という言い方はおかしいですけれども、地域の皆様、それから女性の皆様等々、御意見を聞いて進めたいと思っております。

以上です。

○議長（望月昇 議員） 10 番山下議員。

◆10 番（山下いづみ 議員） よろしくお願いたします。

そして次に、(月)のふじのくにクルーズ船誘致連絡協議会、これは今まで単独でセールスしていたものを、団体組織をしっかりとつくって、これからかかわっていくということです、こちらに期待したいと思っております。積極的なPRということですが、実際に入っている他市の方のお話を大体聞きますと、ここの連絡協議会に入るということは、もちろん自分の港にクルーズ船を呼びたいということもあるし、また、それ以外にも、ほかの港から来た人とまた連携で、自分のまちにも観光に来てもらいたい、これは取り合いというよりも、お互いによくなるようにどうしたらいいのか、そんな建設的な気持ちで入っているということでしたので、また富士市も田子の浦港もこのメンバーに入っていて、積極的に意見を出していただければと思います。

特にまた、清水港のところをいくと、ここは国、まちではなくて、港同士の友好港とか姉妹港とか、そんなこともやっているそうなんです、こういうことは市長のトップセールスで他国に行けばいいのかなというふうにも思いますが、こちらのほうはどうでしょうか。

○議長（望月昇 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（成宮和具 君） まだそこまでの関係がつくられておりませんので、今後の課題ということにさせていただければと思います。

以上です。

○議長（望月昇 議員） 10 番山下議員。

◆10番（山下いづみ 議員） 清水港は3つと提携を結んでいて、また、博多のほうの港に行くと、8の港、これが姉妹港、貿易協力港、相互交流港、友好港、いろんな形になっていて、これは全国の市長会議で、他国から港と友好を結びたいけれども、どこか自分たちで立候補するところはあるのかと手を挙げてなったりとか、市長がみずからトップセールスに行っていたりとかというのがありますので、こちらのほうも近い将来検討されるとまた盛り上がってくるのではないのかなと思いますので、お願いいたします。

そして、火のどの程度の大きさの客船が停泊できるのかというところで、田子の浦港は大きさが限られているわけですよ。大きさが200メートルぐらいが最大ということで、田子の浦港としましたら、この範囲に入る船に絞って誘致をするということができると思います。では、このところでお隣の清水港が力を入れているよということにはなるんですが、実は、ことしの清水港は予定として50隻ぐらい入る中で、もうほとんどあそこは大型化をしていて、田子の浦港に入れる小型のものは1隻だけだった。あとは全部大型であって、とすると、今まで清水港にも来ていたこういう小さい、田子の浦港に入るサイズの船は、もう清水港のところへことしは来ていないんですね。

そうしましたら、こちらのほうを強くセールスを行っていけばよいと思いますが、このところ、県もそうですけれども、国でも世界でもクルーズ客がふえていて力を入れていくところになっているんですけれども、その中で、ほかの造船会社からの要望があるんです。実は、国土交通省が寄港の検討に必要な情報が不足しており、それらを一元的に提供してほしいと、海外のクルーズ船会社からの要望に応えるために、港湾の施設情報や寄港地の観光情報を提供し、寄港地の魅力を発信するというので、ここでそれぞれの港の寄港地情報と観光情報というのを、それは他国の旅行会社、クルーズ船の会社から要望があつてつくっていると。このところを見ますと、田子の浦港がありますけれども、ここにシラス、富士宮やきそば、富士川楽座、それぞれありますけれども、市だけではなく田子の浦港管理事務所もそうなんです、こちらのほうも強く充実させていったほうがわかりやすいと思うんですよ。先ほどありましたけれども、田子の浦港は余り知られていない。そういうことで、ほかの国のクルーズ船の会社が知っているのか、それは情報がとりにくいんですよ。ですので、ここを充実するようにぜひ協議をしていただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（望月昇 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（成宮和具 君） その特定のサイトだけではなくて、やはり全般的に言いますと、田子浦という言葉は非常に認知度が高いんですけれども、田子の浦港となると認知度が低いということがございます。田子の浦港の、先ほど前段で申し上げました強みもございますし、それから、田子の浦港においていただいたときの楽しみ方について、いろいろPRを発信していくことは非常に重要だと思っておりますので、いろいろな方法を使ってそういう啓発活動をやってまいりたいと思います。

以上です。

○議長（望月昇 議員） 10番山下議員。

◆10番（山下いづみ 議員） 田子の浦港についてのいろんな楽しみを検討していくということです。

このところに、きょうは工業・産業、そして観光でという2点でお話をしてきましたけれども、その楽しみの中で、実は田子の浦港の特質としたら、物流港。お配りした資料にも「どんな貨物もおまかせ！」港湾荷役というものをつけさせていただいていますけれど

も、実はこの機械を見るだけでも楽しいですよ。セールスポイントのところ、見学会ではこういうところのコースも見ていただいたりということを知っていますけれども、これは人気、こういうことをまたやったらどうかという声を聞いたと田子の浦港管理事務所の方がおっしゃっていました。そういうことを考えていきますと、市も時には主催、もしかしたら共催をして、こういう荷役をそれぞれに見て説明を受けて楽しむということも1つの楽しみ方になると思いますけれども、こちらのほうは検討していただけるのでしょうか。

○議長（望月昇 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（成宮和具 君） 田子の浦港につきましては、通常時は物流の荷役を行っております。それからまた、国際港であることから、保安エリアが厳重に管理されている部分もございます。その一方で、港でどんな仕事をしているのだろうか、どんな重機があってという部分については、やはり市民の皆様が知られていない部分も多いのかな、こんなふうに思いますので、周辺企業やそれから田子の浦港管理事務所等とも相談をいたしまして、こういう見学会、先日、視察会というのをやりまして、これは富士商工会議所青年部の方々を招いて実施いたしました。非常に好評だったと考えております。これは主体は市ではなかったんですけれども、これから、社会科見学等でもそういう例があるので、市としても積極的にその部分はPRを何か考えたいと思います。

以上です。

○議長（望月昇 議員） 10番山下議員。

◆10番（山下いづみ 議員） 検討のほうをよろしくお願いいたします。

そしてまた、この楽しみというところで、これからまたなでしこ会議等で話し合っ、にぎわいのプロムナードということになってきますけれども、またこちらのほうもあれば、結構日本の船も来るし、外国の船も来る。そうしますと、特に田子の浦港とか公園とか、あのエリアでゆっくりしたいという人がふえていくと思うんです。ですので、こちらのほうをお願いしたいなと思います。ただ、外国の船がふえていくと、そこに多くの人がかもつと来るんじゃないのかなと予想がつく。港に着いてからまたすぐに観光バスに乗って短い時間にいろんなものを見てこようという人はもちろんいると思いますし、旅の中でそういうものを見ないでその場でじっくりとゆっくりしたいという人も結構多いと思いますので、こちらのほうをお願いしたいと思います。

あと、船旅で行きますと、港はそれぞれに色、個性があると思いますが、このところで見ると、田子の浦港は本当に唯一富士山と海のあるまちで、これはほかにはない、また、富士山に一番近い港ということは無二の港ということですので素晴らしいと思います。かつ、それに、寄港をした人たちが楽しめる港であればいいなと思います。それには、先ほどの荷役のツアーであるとか、プロムナードができたりとか、そうしますと余計いいのかなと。

私もいろんな国の港をぐるっと地球を回って寄港してきた経験があるんですが、そうしますと、隣の清水港というのは、ぽんと大きなショッピングモールがありますよね。それというのはとてもシンガポールの港に似ている。それとあと、清水港のほうは規模は小さいですが、南アフリカのケープタウンの港に似ているなというふうに思いました。それはそれでとても楽しかったし、では、田子の浦港はどんな港とすごく似ていたのかなと思いますと、インドネシアのジャカルタ、あそこは完全に大きいんですが、コンテナがたくさんあって、えっ、今から工場の中に入るのかなと思う。そのコンテナの中を縫ってまちに

出た。田子の浦港は小さいですが、バルクのああいうところを見てまちに出るみたいな感じにもなる。あと、タヒチ島のパペーテ、ここは島ですから小さいんですが、歩いたらすぐにいろんな通りがあってショッピングもできるんですが、それは横浜港に似ているんですが、ただ、あそこはフランスにすごく根強く影響されているので、昼休みが長くて、船が着いても昼から夕方まで店が閉まっちゃって何もない状態。何もない状態の中で何があるのかといったら、日本で言ったらキッチンカー、小さな屋台が港の近くに出ていて、そこでくつろいで楽しめる。という、田子の浦港にはみなと公園があって、これからプロムナードで遊歩道があって、そこにキッチンカーなりお店ができてという、そこはタヒチのパペーテの港に似ているのかな。

そういうふうにしますと、船旅で港もそれぞれにいろんな顔を持っていて、旅をする者にとったらそれも楽しめるというところになっていくと思います。ですので、田子の浦港はこれからPRにも努めて整備もしていくということですので、田子の浦港は大きな企業を誘致して発展させていくということにもなりましたけれども、これからは富士市の産業が発展して人々の交流が活発になるように、これからはぜひ田子の浦港のプロモーションに力を入れていっていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以上です。